レッスン：PYR 62

テーマ：アークエンジェル/ イリュージョン/意識/Life

PYR 62 KE07 No.9 21/02/07

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

 　前のレッスンでは様々なアークエンジェルのオーダーについて話しました。そしてそれらの各オーダーは現在のパーソナリティーがそれにアプローチするのですが、それらは四面ピラミッドののなかに「見いだされる」と言いました。実際、それらは四面ピラミッドの4つのサイドにあります。なぜなら、各オーダーは四面ピラミッドの一つのサイドを受け持っているからです。

　どのようにしてアプローチされるのでしょうか？現在のパーソナリティーは5つのアークエンジェルが付き添っているといいました；一つはいわゆる守護大天使ですが、それは四面ピラミッドのどのサイドともつながっていません。

　ピラミッドの一つのサイドには一つのガブリエルがいて、そのサイドを受け持っているのはガブリエルのオーダーです。もう一つのアークエンジェルはミカエルで、そのサイドを受け持っているのはミカエルのオーダーです。そしてもう一つはラファエルで、そのサイドをラファエルのオーダーが受け持っています。そしてもう一つのアークエンジェル、ウリエルがいて、そのサイドをウリエルのオーダーが受け持っています。ですから4つのアークエンジェルが、守護大天使の他に4つのアークエンジェルがいます。

以上に関して何か不明な点がありますか？

Q：パーソナリティーに付き添っているアークエンジェルがそのオーダーを意味しているのですか？

K：そうです、私たちにとって彼等がそれぞれのオーダーを意味しています。彼等を通じて、それらのオーダーとつながるからです。私たちにとってはそうなります。しかし、私たちに付き添っている彼等だけがそのオーダーを意味するのではありません。しかし私たちにとっては彼等は私たちが各オーダーとつながるのを助けてくれるのです。

　もし私たちが私たちに付き添っているミカエルとつながると、ミカエルはミカエルのオーダーのどのアークエンジェルとも類似しています。ですから、私たちにとってはそのオーダーを代表しているようなものです。もし私たちがミカエルに会うと、私たちのミカエルはそのオーダーの一人と会うのと同じようなものです。

　勿論、彼等のやるべき事と働きは異なります。例えば、現在のパーソナリティーに付き添っているミカエル、または他の３つのどれでもいいですが、彼等の役割は現在のパーソナリティーがオーダーとつながるのを助けることです。ですから、私たちから見ると、オーダーそれ自体を代表しているようなものです；私たちにとっては各オーダーを代表しています。それについて考えてみてください。

　さて、２番目のサイクルにいる間に、現在のパーソナリティーに付き添っているそれらのアークエンジェル達とつながることは可能でしょうか？実際、多くの努力をしてもそれは大変難しいでしょう。２番目のサイクルでは人は意識的にはつながらないでしょう、しかし、３番目のサイクルでは意識的につながることができます。そしてその意味は、現在のパーソナリティーがそれらのアークエンジェルの一人に目の前に来て下さいと頼み、そして目の前でその臨在を見ることができるのです。これが適切なコンタクトです…つまり、ただその臨在を感じるだけでなく、それを見ることができるのです。

Page2

Q：アークエンジェルが目の前にいる、臨在しているということ。それについての幻想と実際にいるというリアリティーをどのように区別できるのですか？

K：幻想のなかでさえ、あなたは築くことができます。そして何であれあなたが築くものを見ることができます。そして、もしあなた方にそれができれば、良い方向に来ています。個人的には私は、もしあなた方が目を開けた状態でそのイリュージョンを見ることができれば、つまり目覚めている時にですが、私はとても満足します。それは進歩しているということで､私は喜ぶでしょう。

　勿論、私はパーソナリティーが意識的意識のセルフエピグノシスの状態にある３番目のサイクルについて述べています。しかし、３番目のサイクルでもまたイリュージョンはあるのです。しかし、それが生じるということ、自分のイリュージョンを見ることが出来るということは、あなたは２番目のサイクルにはいないのです。

　あなたがどのようなイリュージョンを生み出そうとも、私がこれから言うことについて考えてください。あなたが睡眠中にどのようなイリュージョンを築く又は創造しようとも、つまり実在の別の波動のなかでという意味ですが、実際、それはあなたにとってはリアリティーなのです。ですからイリュージョンがリアリティーになるのです。しかし、何であれあなたが別の目で（＊寝ている間に）見たもの、それはもはやイリュージョンではありません。

　イリュージョンとは何でしょうか？イリュージョンとは、何であれ誰かがそれはリアリティーではあり得ない、と考えたものです。そして何であれリアリティーにはなり得ないものを、私たちはイリュージョンと言います。しかし、何であれあなたがそれを見て、確実であるもの、それはリアリティーです。

　レッスンのなかで言いました、ファンタジーであっても、あなたのファンタジーの背後では、それはリアリティーです、と。なぜなら、いつでも誰かがファンタジーを現している時、その背後にリアリティーがあるのでファンタジーを体験しているのです。

　あなたの夢の中で、夢を見ている時にそれが起きれば、あなたにとってそれはリアリティーです。それを区別できる唯一の方法は、あなたが目覚めている時です、その時にはあなたはイリュージョンと現実を区別できます。それはあなたがどちらの目で見ているか、ということです。実際、それはパーソナリティーがどちらの感覚を使用しているかによるのです。しかし、実際すべてはリアリティーなのです。

　事実、実存の別の波動のなかで起きること、つまりサイコノエティカルの諸世界でということですが、何であれそこで生じることはリアリティーです。それは実際のリアリティーです。この世界でリアリティーであるとみなされているもの、それは真のリアリティーと比べれば、それはリアリティーではありません。しかし、私たちがこちらの世界の波動において見れば、私たちはそれはリアリティーであると言います。しかし、それよりももっとリアリティーであるのは、私たちが時にはファンタジー、イリュージョンであるとみなすものです。

　レッスンのなかで、何であれあなたが夢の中で見るものは実際に存在する、と言いました。同じように、レッスンのなかで、創造エーテルを使って想念でもって築くもの、それは実際に存在し、リアリティーである、と言いました。それはこの波動の世界（＊物質界）で私たちがリアリティーであるとみなすものよりも、もっとリアリティーなのです。なぜなら、何であれ私たちがこの波動の世界でリアリティーであるとみなすものは、私たちはそれらを真の感覚でアプローチしていません、影の感覚を使っているからです。

　この波動の世界でイリュージョンとして現れているもの、それは他の波動の世界でも生じています。つまり、あなたがイリュージョンまたはファンタジーを現している時、あなたは何かを創造しているのです。勿論、あなたにとって、こちらの波動にいる時には、あなたが創造するものに触れることはできません。しかし、もし真の感覚を使うことができれば、何であれあなたが創造するもの（この波動の世界の物でないもの）は、それは実際に現実でリアルなのです。

　例えば、今あなた方はこの部屋には多くの人達がいて、その人達は非常にリアルに見えます。しかし、もしあなたがこの光景をサイコノエティカル界のシーンとして見ることができれば、もっとリアリティーとなります。なぜなら、この部屋にもっと多くの人々がいるのが見えるからです。サイコノエティカル界にいる人々はそのような気づきを持ちます。しかし、私たちから見ればそうではありません。そして勿論、不可視のヘルパー達が助けを与え、守っているのです。

　もし現在のパーソナリティーがもっと意識的に真の感覚を使うことができるなら、ファンタジーですらリアリティーとなります、なぜならあなたがファンタジーを現している時、それは何かを築いていることになるからです。あなたがイリュージョンを現している時ですら、何かを築いているのです。そしてあなたのイリュージョンはリアリティーになるのです。しかし、もし私が私には実際にはできないことを「見なさい、私はこれを行うことが出来ます」と言う時、それはファンタジーです。「私にはできる」と言っている時に何かを築いている、ということではありません。

　Page3

　勿論、真の感覚がなくても、この波動の世界で私たちは自分のイリュージョンを生きています。なぜなら、私たち各人は周囲を肉体の感覚で見ていて、それらと関係しているからです；同じ環境におかれていても、私たち各人はその人自身のリアリティーまたはイリュージョンを生きています。

　ですから、一般的に言えば、私たちは実際にイリュージョンの世界に生きています。そして私たちはそのイリュージョンを現実にします。レッスンで言いましたが、現在のパーソナリティーが無知のステートにいる間、現在のパーソナリティーの全ての世界はイリュージョンの世界であり、そして私たちのイリュージョンがリアリティーになります。私たちがLifeの本質を現す時初めて、リアリティーにアプローチすることができます。そして実存の諸世界にいる間は、誰も真の絶対的リアリティーにアプローチすることはできません。

　同調の諸世界は実存の諸世界ではありません。実存の諸世界では私たちは場所に存在しており、Lifeの本質、Lifeの能力の現れにも限界があります。私たちは存在し、空間と時間に縛られています。サイコノエティカルの諸世界には“実際には”時間・空間は存在しないのですが、現在のパーソナリティーはそれらが存在すると想像しています。なぜなら現在のパーソナリティーはLifeの本質を現しておらず、それゆえ私たちは自分自身のサイコノエティカル界を築いているのです。

　しかし、実際にそれらの諸世界で、もし私たちがノエティカルからサイキカルを分ければ（それはレッスンで述べたように不可能ですが）、サイキカル界に空間が存在しないことがわかるでしょう、そしてノエティカル界には時間はもはや存在しないことを。しかし､私たちは現在のパーソナリティーにとって時間と空間を分けることはできないのです。なぜならそれは思考と感情の仕方だからです。ですから、私たちはそれらの意味が存在するというイリュージョンを持っているので、それを実践するのです。

　勿論、現在のパーソナリティーが真の五感を使用するようになると、時間・空間に関するこのイリュージョンはもはや存在しません。そしてそのパーソナリティーはサイコノエティカルの諸世界を自由に動くようになりでしょう。パーソナリティーが３番目のサイクルをマスターすることに向けて進めば進むほど、その動きはもっともっと意識的となり、最終的にリアリティーを超意識的に体験するようになり、そこでは意味というものはもはや存在しなくなります。これは超意識的意識のセルフエピグノシスを現すことによって、現在のパーソナリティーが４番目のサイクルに入った時に起こります。そして勿論、真の感覚を完全に使用しています。

　しばしば人々は実存(\*existence)という言葉をLifeと誤解しています。それは間違っています。Lifeの本質を現すことによって、そのパーソナリティーは限界、制限のなかに実存することがなくなり、Lifeの本質を完全に現します。“Life Is.”（Lifeがそこにある）です。それらが存在の諸世界なのです。そして何であれIs（あるもの）は、あなたの内側にIs (ある）というステートなのです。

　意識はLifeであり、それを気づき(awareness)と間違えてはいけません。どのサイクルの潜在的可能性が表現されているかにより、意識には様々なレベルがあります。そして気づきとは気づきのレベルであり、思考・行動の仕方としてパーソナリティーのレベルを現しています。

　そして一方、私たちはbeing Logoic（ロゴス的存在）としての下降です。なぜなら、その現れは最終的に限界ある現れの中で何かを活性化させるからです。言い換えれば、Soul（魂）は意識であり；それはセルフエピグノシスの能力を通じて自己実現を達成する能力を持つ一つのアークエンジェルなのです。魂のセルフエピグノシス(Soul Self-Epignosis)には自己実現の能力があります。なぜならそれはアークエンジェル達のようにプログラミングによって制限されていないからです。

　プログラミングはどこから来るのでしょうか？勿論、それはLifeの中からであり、それらはLifeの本質を完全に現しており、彼等は最小の中においてさえもLifeの本質を完全に現し続けます。そのプログラミングはLifeの本質の中にありますが、私たちは自己実現の能力を与えるセルフエピグノシスとしてLifeからの何かを持っているのです。

　自己実現の時、その現在のパーソナリティーは骨組みの全てのセンターを刺激し、Lifeの本質、Lifeの能力を現す体を使います。

Page4

 与えられたパワーと能力は、細胞の中の物質としての原子の中にさえ見いだされます。セルに与えられたパワーと能力はそこに含まれています。もし完全に活性化された元型としてのセルによって与えられた調和を持たなければ、その時にはアンバランスなセルと私たちがみなすものとなります。

　また物質の原子の中にもその現象があり、それは容易にその調和のステートの中に侵入することができます。なぜなら、それらはバランスがとれていないからです、完全に活性化された骨組みを持っていないと言うことです。そしてもし私たちが介入すれば原子爆発という現象が生じます。

　水素の原子、ウランの原子などと呼ばれるような原子があり、それらから外側に巨大なパワーが出ています。介入することによってさらに大きなアンバランスが引き起こされます。なぜなら、その原子を調和状態に留めているパワーから巨大なパワーが外側に出るからです。あなた方が目で見ることさえできない何か、その内側にそれほどのパワーがあるのを想像できるでしょうか？惑星にある全ての原子に私たちが介入した時の爆発を想像することができますか、外側に爆発するそのパワーを想像できるでしょうか？あるいはもしかしたら私たちが諸宇宙を吹き飛ばしてしまう、そのようなパワーを想像できますか？

　私たちはエネルギーのなかを泳いでいます；私たちはパワーの中を泳いでいます。ですから私たちはそのパワーを破壊的ではなく使う必要があります。科学者たちはすでに破壊的ではない手段を発見しています。しかし、ある程度は破壊的になり得ます。それは終わりのないパワーであり、それはまったくお金がかかりません；それは電磁気的なパワーであり、私たちはそのパワーのなかで泳いでいるのです。結局、諸宇宙を調和のなかに保っているのはこのパワーなのです。もちろん、それ以上のものさえあります、それはエネルギーであり、そのエネルギーはあらゆるものにLifeを与えます。

　しかし、今の人類の気づきのレベルにおいては、もし人類がそのパワーの使い方を知ったら、残念ながらそれを否定的な方法で使用することでしょう。それに向き会いましょう。歴史のなかでこの地球上のある人間達は、あるいはそれ以前の地球においてそれを使用し、大きな破壊を引き起こしました。パワーは内側から来ます、そのパワーは創造エーテルから来るのです、そして創造エーテルが電磁気と共に使用された時、稲妻が生じ、勿論破壊的です。それゆえに私は前にLifeのみに奉仕するより純粋なエネルギー、より純粋な手段としてのパワーがある、と述べたのです。

　アトランティス人は創造エーテルと電磁気の組み合わせによってお互いに破壊し合いました。私たちの内側には5万ボルト以上があります、しかし5万ボルトはどんどん倍増していきます；あなた方が雲のなかに見る稲妻は人間が現すことのできる電気のパワーと比べたら無に等しいものです。

　エネルギーは唯一の目的、人類の恩恵のために使うべきです。私たちはエーテルの海の中を泳いでいるのです；それはエーテル、エーテル活力であり、それはヘブンからのマナ（＊真の価値、祝福）です。

Ｑ：死につつある人、肉体を去りつつある人はしばしば親族のビジョンなどを見ます。それらは不可視のヘルパーですか？

Ｋ：亡くなる直前の人々はいわゆる幻覚をみます。しかし、彼等にとってそれはリアリティーです。彼等がそれを創造しているにしても、彼等はそれを見て、彼等のイリュージョンであるそのリアリティーを生きます。ですから、別の波動のなかにいる自分を見いだし、彼等は人々を見ます、なぜなら彼等が人々を創造するからです。それは彼等にとってリアリティーでしょうか？そうです、彼等にとってはリアリティーなのです、例えそのようなパーソナリティーはもはや“存在”していなくても…そのような人々は転生して生まれ変わっているかもしれないからです。

Ｑ：しかし、私たちはいつも言いました、死ぬ時には自分が死んだことに気づかないと；眠りから覚めると、あたかも再び人生を続けるかのように。

Ｋ：私が言っていることは、死ということについての知識を持っていると、その知識が潜在意識の中にあり、彼等はそれを見ることができ、なぜだろうといぶかることがありません。；記憶は消されます。何であれ痛みをもたらしたもの、あるいは作りだした痛みなどは消されます。結局、サイコノエティカルな諸世界においてそのパーソナリティーは新しい転生に向けて自分を準備します。何であれ肉体のなかにいた時に喜んで行っていたことを、そのパーソナリティーは続けます。その人が生きていた間に死んでしまった愛する人々でさえ、死んでしまったことにより心を痛め苦しんだので、それらは消されます。ですから、そのパーソナリティーは向こうの世界に行っても、それらのパーソナリティー達を築きます。あたかもこの現実界で何も起きなかったかのように。そのパーソナリティーがそれらを創造します；しかしそれは、その現在のパーソナリティー（＊先に死んでしまった人）を転生させた永遠のアトムがまだそこにあるということではありません。

　さて、実際のパーソナリティーが現世の波動のなかでは赤ん坊であるとしても、もしあなたが今ここで赤ん坊として生きているそのパーソナリティーの波動の中で何かを築くなら、現世にいるその赤ん坊の意識は何であれあなたが向こうの世界で築くものを活性化するのです；私たちはそれについて説明しました：それはLifeの多重性です。あなたが（＊死んだ後）向こうの世界で会うパーソナリティーは、あなたがその人を（＊生前に）知っていたとおりに築くのです。あなたがその人と親しかった時と同じ年齢、その他同じように。しかし、それは現在では既に転生して生まれてきている“赤ん坊”によって活性化されるのです。

　死という現象によって肉体を去ったそのパーソナリティーが自分のイリュージョンを創造し、自分が死んだことを知らないのです。そしてそれ故に、サイコノエティカル界に存在する法則を使いません。サイコノエティカルな諸世界で、いつその人が目覚め、そこで働いている法則を使用するかなどは一般化することはできません。しかし、一般には3番目のサイクルの終わり頃かもしれません。

EREVNA PYR 62 KE07 No.9 02/21